

子どもの予防接種における 親の意思決定

看護情報学特論 I

2015.6.25

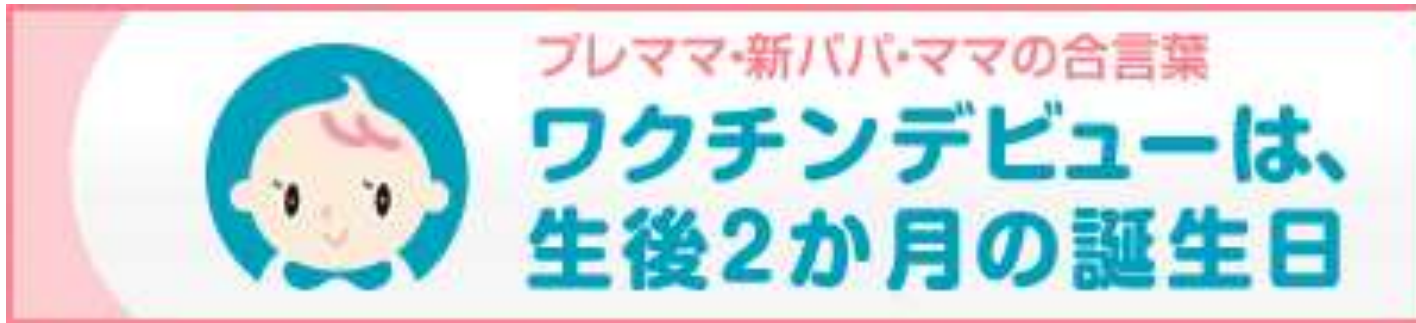
小児看護学上級実践コース

高橋花子

日本の子どもが接種できるワクチン・ 予防できる病気

日本の子どもが接種できるワクチン	ワクチンで防げる病気
B型肝炎ワクチン	B型肝炎（肝臓がん）
ロタウイルスワクチン	ロタウイルス感染症（胃腸炎）
ヒブワクチン	細菌性髄膜炎などのヒブ感染症
小児用肺炎球菌ワクチン	細菌性髄膜炎などの肺炎球菌感染症
四種混合ワクチン・三種混合ワクチン	ジフテリア・百日せき・破傷風・ポリオ
BCGワクチン	結核
不活化ポリオワクチン	ポリオ
MM（麻しん風しん混合）ワクチン	麻しん（はしか）・風しん
おたふくかぜ（ムンプス）ワクチン	おたふくかぜ（流行性耳下腺炎）
水痘（みずぼうそう）ワクチン	水痘（みずぼうそう）
A型肝炎ワクチン	A型肝炎
日本脳炎ワクチン	日本脳炎
インフルエンザワクチン	インフルエンザ
ヒトパピローマウイルス（HPV）ワクチン	子宮頸がんなどのヒトパピローマウイルス感染症
髄膜炎菌ワクチン	細菌性髄膜炎などの髄膜炎菌感染症

生まれて予防接種はいつから開始？

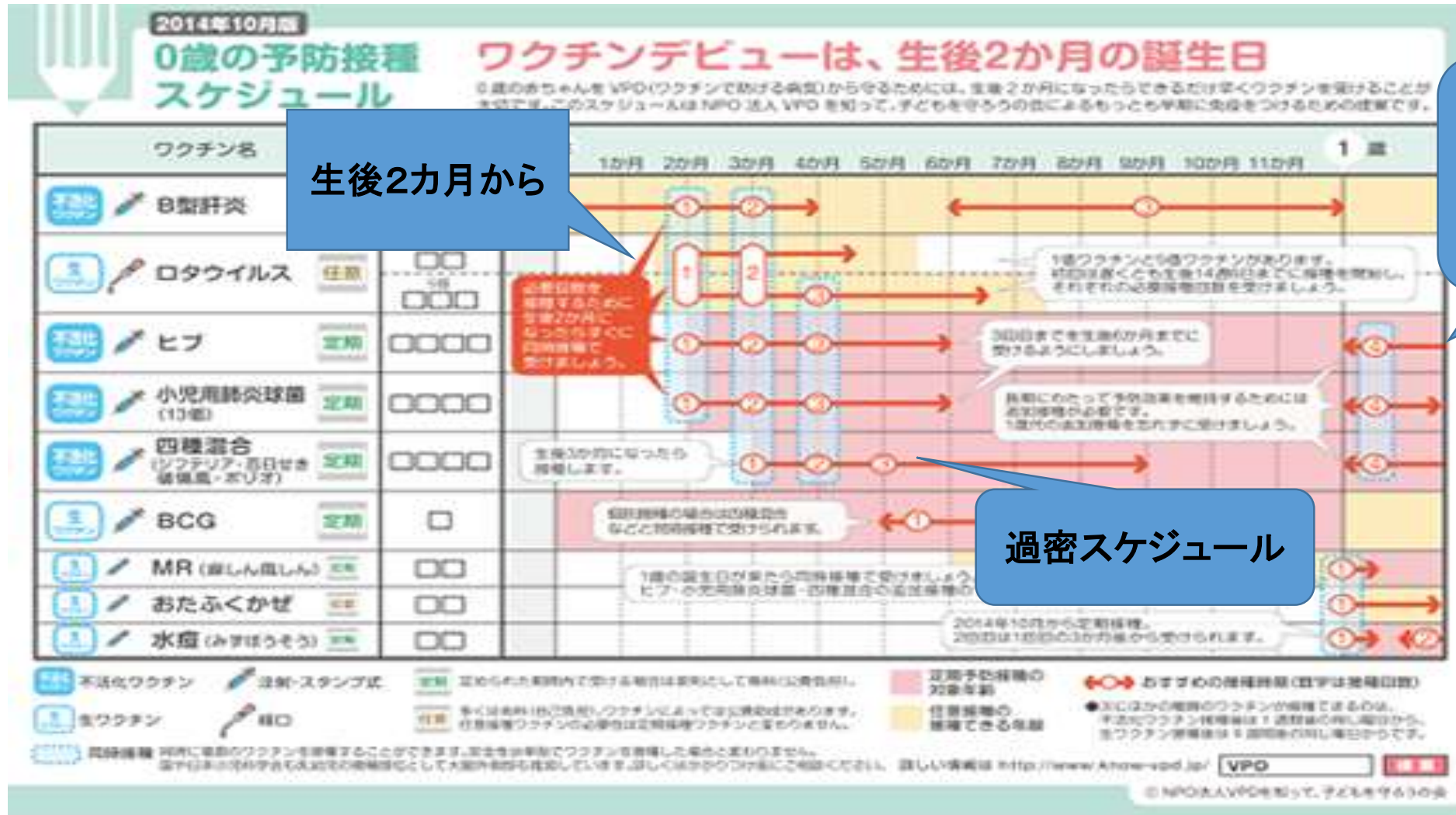


引用；VPDを知って、子どもを守ろう。の会ホームページ[2015.5.25検索]<http://www.know-vpd.jp/index.php>



生まれてすぐ、始まるんだな。
仕事のスケジュール調整しないと。

生後2か月からのワクチンスケジュール



予防接種の種類

定期接種(勧奨接種)	任意予防接種
BCG 麻疹風疹混合 ヒブ 小児用肺炎球菌 4種混合 水痘 日本脳炎 HPV	ロタウィルス B型肝炎 おたふくかぜ インフルエンザ A型肝炎

勧奨接種

- 以前は義務接種であった。



- 1994年(平成6)年の予防接種法改正から「勧奨接種」が取り入れられた。

勧奨接種の意味

- 個人の健康のため、またワクチンによっては集団の健康のため接種を国が勧める、義務というわけではないが国民は接種を受けるように努力して欲しいということ

(引用: 渡辺博(2012)わかりやすい予防接種、診断と治療社)

そもそも予防接種の目的とは・・・

第一の目的

個人の感染症の予防

第二の目的

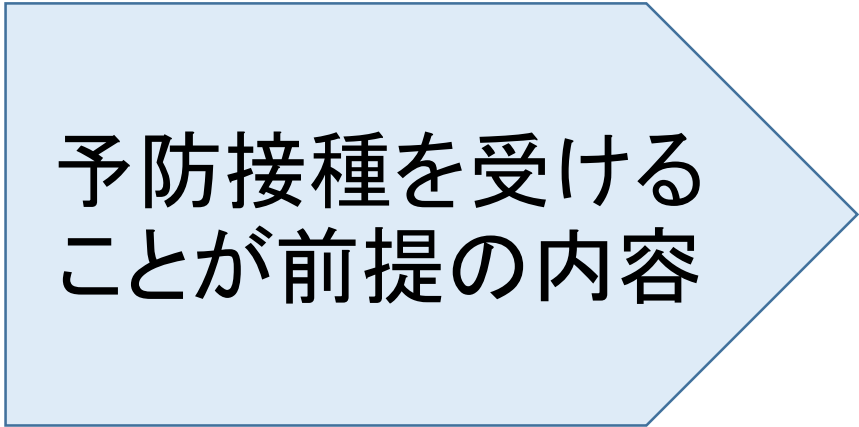
社会全体の感染症流行の阻止

と言われている

医療者に向けた予防接種に対する文献

文献に多く記載されていること

- ワクチン接種の必要性
- ワクチンの種類とその説明
- 予防接種を受ける前の注意点
- 予防接種を受けた後の注意点
- 予防接種の副反応



予防接種を受ける
ことが前提の内容

ワクチンを受けた側の声

「たとえば10万人に一人の死亡事故が起こるワクチンだと、接種する側からすれば0.001%の事故発生率です。しかし、事故にあった子どもや親にとっては、100%の発生率です。」

「予防接種による被害の悲劇性は、親が子どもによかれと思い、自分の手で抱いて連れて行き、その結果、障害者にしたり、死なせたりすることです。」

ワクチントーク全国事務局長・元全国予防接種被害者の会事務局長
藤井俊介

(引用:毛利子来 他(2006)予防接種へ行く前に、ジャパンマシニスト)

ふたたび戻って、予防接種法改正

1994年予防接種法改正により、
接種を受けるか受けないかは、個人の自由意思で選ぶことができるようになった。



接種の判断をするための市町村(23区)からの情報提供

「予防接種と子どもの健康」(公益財団法人予防接種リサーチセンター)

- 内容は、接種をすすめる立場が強調
- 予防接種のマイナス面の情報や、接種される側に必要な情報が少ない

予防接種を受けるか判断するために 本来、必要とされる情報

- 1) 現在の病気の流行状況
- 2) 感染した場合の後遺症などがどの程度であるのか
- 3) 予防接種の副作用
- 4) 副作用が起きた場合の対処のしかた
- 5) 副作用の予後の状態

ワクチンは安全なのか？

「安全」を、副反応が全くないものと定義すると、



ワクチンは安全とはいえない



「ワクチンの効果は、ワクチンのリスクよりも大きいのか？」
という視点で考える

ワクチンの効果（感染を防ぐこと）は ワクチンのリスク（副反応）より大きいのか

判断するためには、3つの情報が必要

- ①それぞれの感染症にかかる危険性はどれくらいのものか？
- ②それぞれのワクチンの副反応のリスクとは何か？
- ③ワクチンは病気を防ぐためにどれくらい有効なのか？

（引用：ポール・A・オフィット&ルイス・M・ベル 監訳：神谷齊（2002）予防接種は安全か、両親が知っておきたいワクチンの話、日本評論社）

予防接種について、 母親は何を知りたがっているのか？

乳児を持つ母親のソーシャルメディア上に書き込まれた「予防接種」に関する発言を分析した調査（調査期間：2011年4月から2012年3月）

母親が予防接種に関して抱く疑問や不安として多くみられたもの

- 1) 風邪や発熱など、子どもが体調を崩し、接種の延期をした場合のその後のスケジュール
- 2) 「ポリオ」ワクチンは経口がいいか、注射がいいか
- 3) ワクチンの同時接種がいいのか、個別接種がいいのか

（引用：井田歩美 他(2014)乳児をもつ母親の予防接種に関する疑問や不安、母性衛生55(2)）

予防接種について、
母親は何を知りたがっているのか？

多くはないが……

接種可能なワクチンをスケジュール通りにすべて受けるべきなのか、
受けなければいけないのか、困惑する母親の様子もみられた。

母親が情報を得て意思決定しようとする過程

- 1) 小児科医など専門職者に相談する前に他の母親の意見を聞いておきたいという欲求
- 2) 専門職者に相談したものの理解に至らなかった場合やある程度の理解はできたものの意思決定に踏み切れない



二つの母親の心情が見いだされた

意思決定にあたり、他者がどのような体験をし、何を思ったのかが表されるナラティブ情報として、母親は、同じ月齢の子どもをもつ母親のアドバイスを求め、ソーシャルメディアを利用していることが明らかになった

(引用: 井田歩美 他(2014)乳児をもつ母親の予防接種に関する疑問や不安、母性衛生55(2))

医療者に求められること

子どもの親が、それぞれのワクチンの意義や接種時期を理解した上での意思決定を促すためには、

- 1) 比較的時間に余裕のある妊娠期からの情報提供が必要
- 2) 子どもの親に、必要な情報を伝えるために、医療者自身が予防接種のリスクと効果の視点を持ち、正確な情報とは何かを理解することが重要

参考文献

勝田友博 他(2010)予防接種を受けることの意義、健康教室61(2)、東山書房

藤岡雅司(2010)予防接種を受けるときには～受ける前、受けた後の注意点、副反応がおこったときには～、健康教室61(2)、東山書房

渡辺博(2012)わかりやすい予防接種、診断と治療社

毛利子来 他(2006)予防接種へ行く前に、ジャパンマシニスト

ポール・A・オフィット&ルイス・M・ベル 監訳:神谷齊(2002)予防接種は安全か、両親が知っておきたいワクチンの話、日本評論社

井田歩美 他(2014)乳児をもつ母親の予防接種に関する疑問や不安、母性衛生55(2)

遠藤亜貴子(2014)乳児期予防接種における親の接種決定・行動に影響する要因、小児保健研究73(5)

VPDを知って、子どもを守ろう。の会ホームページ[2015.5.25検索]

<http://www.know-vpd.jp/index.php>